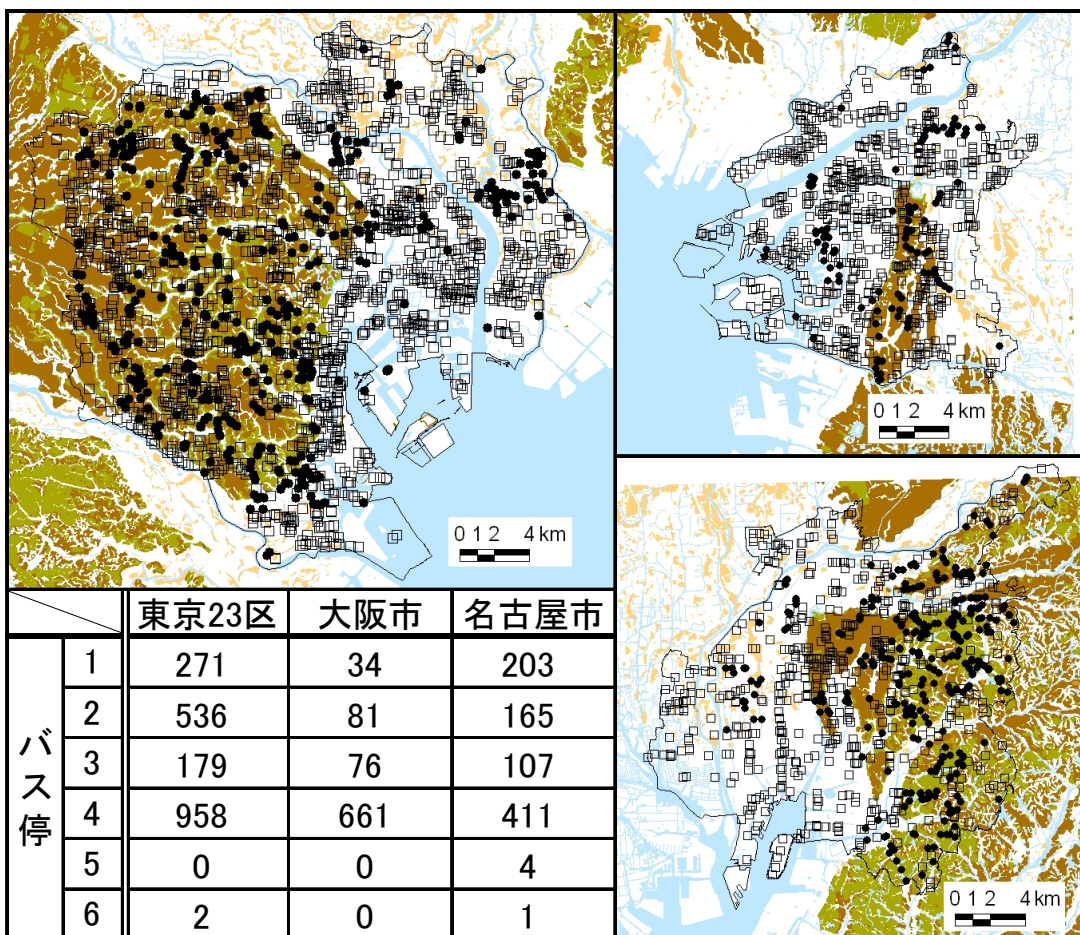


地名が語る災害危険度

◆ 減災連携研究センターの取り組み

私たちの祖先は大地震で繰り返し被害を受けてきました。しかし、現代社会は昔に比べて人口も飛躍的に増大し、住宅地が台地上から低地へ、あるいは切り盛りされた丘陵地、埋立地へと拡張されていったことから、災害に対する脆弱性が増し、被害もはるかに甚大になる可能性が非常に高くなっています。発生が危惧されている巨大地震に対して災害に強いまち・強い社会を構築するためには、国民ひとりひとりが地震災害をわが事ととらえ、防災行動へとうながす方法論の検討が不可欠です。

そこで、減災連携研究センターでは、現代社会の災害脆弱性や地域の地震危険度を一般国民ひとりひとりに分かりやすく説明するための研究として、地名と地盤の関係や浮世絵と地盤特性の関係、あるいは各種古地図の収集・分析などを行っています。



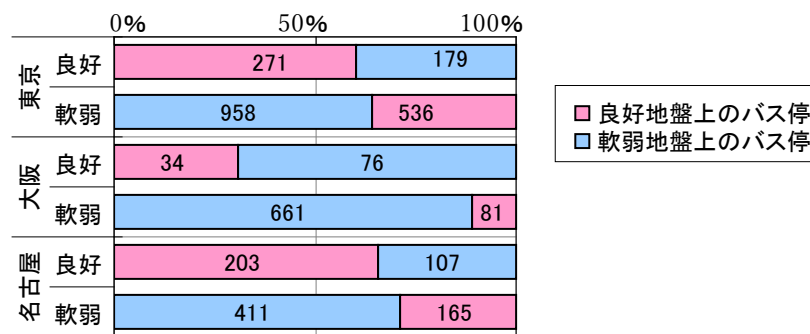
◆ バス停名と地盤条件の関係

地盤や地形の特徴は地名として残されている場合が多く、また、バス停は高密度に存在し、昔からの地名が残されている場合が多くみられます。

ここでは、種々の文献を参考に、地名に関する漢字の意味を独自に解釈して統計的に地盤の良否と結びつけ、東京・名古屋・大阪を対象にバス停名と地盤の関係を調べてみました。地名と災害危険度の間にはある程度の対応関係がみとれます。

良好	表中の数値対応		土地条件		
	地名	良好	1	3	5
		軟弱	2	4	6
●	良好地盤地名				
□	軟弱地盤地名				

土地条件図とバス停名の分布



土地条件とバス停名の対応

(出典:河合真梨子,名古屋大学大学院環境学研究科修士学位論文,2009)